

## 2 地区の歴史



本地区を含む関内・関外地区は、幕末の外国人居留地の誕生とともに、それを支える日本人街が形成され、併せて官公庁施設などの立地が進んだことで、横浜の原点として発展を遂げました。

その中でも本地区は、その後の諸外国との交易の発展により、貿易に関連する業務機能や宿泊機能などが集積した迎賓の街として形成されるとともに、積極的に新しい人・モノ・文化を受け入れ、関内・関外地区の発展にも貢献してきました。

### 横浜開港～戦後

- ・本地区を含む山下町とその付近一帯は、1859年の横浜開港を契機とし、外国人居留地が形成され、外国商館等が立ち並び、多くの外国人が訪れました。
- ・1860年には、英一番館が設立され、関東大震災で焼失するまで横浜の貿易拠点として重要な役割を果たしました。現在は、その跡地（現シルクセンター）には記念碑が設置されています。
- ・1922年には、外国商館で唯一現存している、旧英國七番館（現戸田平和記念館）が建設されました。
- ・1923年9月1日に発生した関東大震災により、外国商館等が立ち並ぶ街並みも甚大な被害を受けました。
- ・震災後、1927年にホテルニューグランドが開業し、さらに、関東大震災の復興事業の一環として、1928年に山下公園通りに銀杏並木が植えられ、1930年には、震災の瓦礫により、当時の海岸通り前の水面を埋め立てて、山下公園が整備されました。
- ・1935年には山下公園、山下公園通り一帯で「復興記念横浜大博覧会」が開催されました。
- ・戦後、山下公園を含め、山下公園前面の街区付近一帯は長く接収され、1959年の全面接収解除後、開発等の機運が高まりました。



横浜異人商館之図 貞秀画 文久元年（1861）  
(横浜開港資料館所蔵)



関東大震災で全壊した  
チャータード銀行 大正12年（1923）  
(横浜開港資料館所蔵)



山下公園〔絵はがき〕 昭和期  
(横浜開港資料館所蔵)

## 戦後～1990年代

- ・1959年には、横浜港開港100年記念事業として、生糸・絹産業及び貿易の振興並びに観光事業の発展を図る目的で、シルクセンターが建設されました。
- ・1961年には、同じく横浜港開港100年記念事業の一環として、高さ106mの横浜マリンタワーが建設されました。
- ・1965年には、横浜港駅から山下埠頭駅を結ぶ貨物専用の鉄道路線として、山下臨港鉄道が開通しました。
- ・1970年代に入り、神奈川県民ホール、産業貿易センタービル等の計画が相次いで進みました。
- ・1986年には、横浜人形の家が開館しました。

## 2000年代～現在

- ・2000年代に入り、山下臨港鉄道（1986年廃線）の線路跡が、山下臨港線プロムナードとして整備されました。
- ・2009年及び2022年には、横浜マリンタワーの建物外観や屋内改装などのリニューアルが行われました。
- ・2020年にホテルモントレ横浜が閉館、2023年にホテルメルパルク横浜が閉館し、2025年4月には神奈川県民ホールが休館しています。
- ・2023年には、山下公園西端のレストハウス（2001年設置）が再整備され、カフェ、レストラン、ショップなどの機能を備えた「THE WHARF HOUSE（ザ・ワーフハウス）山下公園」がオープンしました。
- ・2025年には、スターホテル横浜（1984年～2020年）跡地に、「ザ・ゲートホテル横浜 by HULIC」がオープンしました。また、同年に戸田平和記念館が耐震補強工事を終え、リニューアルしました。

### 山下公園

- ・関東大震災のがれきを埋め立てて作られ、1930年に開園を迎めました。
- ・海への眺望、沈床花壇のバラ、歌碑や記念碑など見どころの多い公園です。
- ・6つの大陸へのびる道をデザイン化した世界の広場と、バルセロナのグエル公園を想わせるカスケードのある大階段などが整備されています。
- ・2007年には国登録記念物（名勝地関係）に登録されました。



山下公園

### 旧英國七番館（現戸田平和記念館）

- ・旧英國七番館は、1922 年にイギリスの貿易会社の横浜支店として居留地 7 番地に建設されました。
- ・1976 年に創価学会神奈川事務局の所有となり、創価学会第 2 代会長である戸田城聖氏の「原水爆禁止宣言」を記念して、1979 年に戸田平和記念館として開館しました。
- ・関東大震災前の外国商館の貴重な遺構であり、2001 年に「横浜市認定歴史的建造物」に認定されました。



旧英國七番館（戸田平和記念館）

### ホテルニューグランド

- ・1923 年の関東大震災で壊滅的な被害を受けた横浜市は、新たな外国人向けホテルの建設を決定し、1927 年に震災復興の象徴として「ホテルニューグランド」が誕生しました。
- ・「ニューグランド」という名称は、横浜市民からの公募で選ばれました。震災前に海岸通りにあった旧グランドホテルの後継としての意味を込めて選ばれたとも言われています。
- ・開業以来、国内外の VIP を迎え入れ、横浜の迎賓館としての役割を果たしてきました。
- ・ドリア、ナポリタン、プリンアラモードなどの発祥の地としても知られています。



グランドホテル（横浜開港資料館蔵）



現在のホテルニューグランド

### シルクセンター

- ・横浜港開港 100 年記念事業の一環で県・市の合同事業として計画され、生糸・絹産業及び貿易の振興並びに観光事業の発展を図る目的で、1959 年に建設されました。
- ・設計は指名コンペにより選ばれた坂倉準三建築研究所が担当しました。
- ・2 階にあるシルク博物館では、絹産業の歴史や文化を紹介する展示が行われており、生糸の貿易とともに発展してきた横浜の歴史を伝える重要な役割を果たしています。



シルクセンター

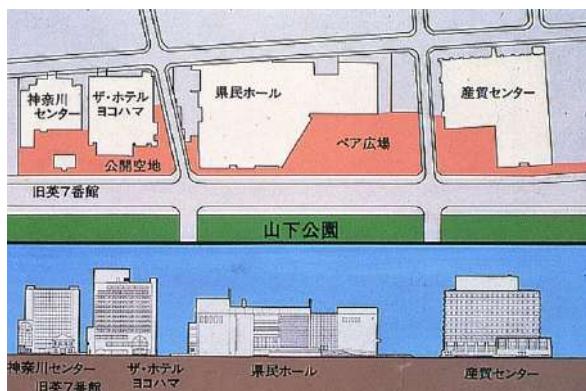
## 山下公園通りにおける開発誘導

### ■～1970年頃 まちづくりの機運の高まり

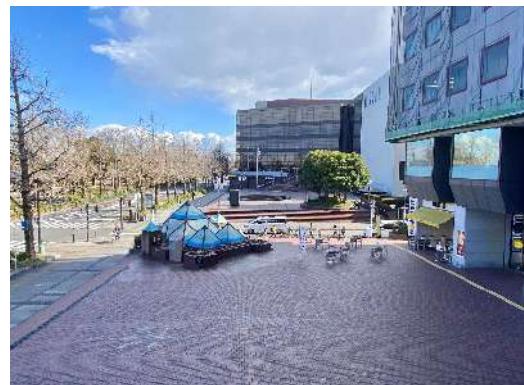
本地区は、都心部強化事業の骨格的プランである「緑の軸線構想」(※)の重要な地区として位置づけられ、1970年代に、神奈川県民ホールや産業貿易センタービルの建設が計画されました。

### ■1971年 「都市づくり構想（街区形成の計画基準）」

神奈川県民ホールや産業貿易センタービルの計画を契機に、「山下公園通りに沿った歩道を補う3m幅員の歩行者空間の確保」、「角地の広場の整備」、「山下公園通り側に車の敷地への進入口を設けない」などが盛り込まれた地区整備の方針である都市づくり構想（ガイドライン）が作成されました。これに基づく協議により、県民ホールと産業貿易センタービルの向かい合った二つの敷地内広場、通称「ペア広場」が整備されました。



山下公園通り周辺の平面図及び立面図（1971年）



ペア広場

### ■1973年 「山下公園周辺地区開発指導構想」策定

これまでの協議を通して、「山下公園周辺地区開発指導構想」が作成され、その後の開発調整が具体的に実施されることとなりました。単なるデザインだけでなく、建築用途や広告、緑化、歴史的資産の保護など幅広い視点で取り組まれました。

### ■1977年 「山下公園及び日本大通り周辺地区指導基準」策定

隣接する日本大通り地区で計画されている建築計画と一体的なまちづくりを推進していくために対象地区を広げ、「山下公園及び日本大通り周辺地区指導基準」として全面的な改正が行われました。一定以上の高さでは高層階に公共的施設を入れ眺望を公開することや、山下公園と銀杏並木への日照を考慮すること、レンガを基調とした素材や色彩することなど、敷地利用や形態意匠の考え方を定めました。

### ■1986年 「山下公園及び日本大通り周辺地区街づくり協議指針」策定

建築確認申請の事前協議の手続きとして街づくり協議制度が導入されたことに伴い、「指導基準」を基に「街づくり協議指針」が策定されました。

### ■2002年 「山下公園通り地区地区計画」策定

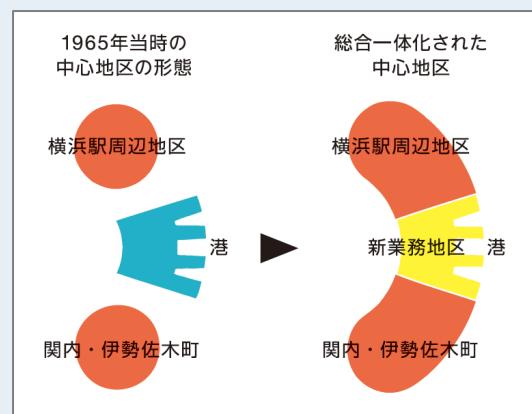
街づくり協議指針の考え方を基に建物用途や形態意匠等について法的拘束力のある基準を設け、低層部のにぎわいや横浜の歴史を象徴する街並みの誘導を図ってきました。

### ■2008年 「横浜市景観計画」策定

2005年に施行された景観法に基づき、良好な景観の形成のための基本的なルールとして「横浜市景観計画」が策定されました。本地区においては、歴史的建造物と調和した形態意匠とすることや、角地における広場状空地の確保、海への見通し景観の形成など、これまでの開発誘導の考え方を基にした基準を定め、地区の魅力を活かした景観形成を図ってきました。

#### (※) 都心部強化事業と「緑の軸線構想」

- 都心部強化事業は、1965年に打ち出された横浜市六大事業のうちの一つで、横浜駅周辺地区と関内・関外地区の2つの都心地区を一体化し、横浜の中心である都心部の発展を図るものでした。
- 「緑の軸線構想」は、都心部強化事業において、都心部の魅力を高めるための骨格として計画されました。
- 都市に潤いを与え、品格のあるアーバンスペースを生み出し、画一的な都市形成によりまちの個性が失われることを防ぐものでした。
- 人々が、その環境の中で集い、憩い、語らい、散策することができ、市民生活の一つの中心となりえるような個性豊かな公園、緑地という理念のもと整備されました。
- この緑の軸線は山下公園から、日本大通り、横浜公園、大通り公園を経て蒔田公園までつながっています。



都心部強化事業の基本概念



計画当初の緑の軸線（濃緑色）